

伏見信用金庫本店

FUSHIMI SHINYO KINKO HONTEN (Fushimi Trust Bank)

所在地———京都市伏見区深草西浦町 1 - 1

建築主———伏見信用金庫

設計者———株式会社日建設計

施工者———戸田建設株式会社

株式会社増田組

株式会社藤井組

竣工———1985年 4 月 30 日

location———Kyoto

owner———Fushimi Shinyo Kinko

architects———Nikken Sekkei, planners, architects and en-
gineers

contractors———Toda Construction Co., Ltd.

Masuda-Gumi Construction Co., Ltd.

Fujii-Gumi Construction Co., Ltd.

completion date——April, 1985





正面エントランス回り Around the entrance.



正面アプローチ Approach.



側面全景 Side elevation.

建築概要

敷地面積 8,801.93㎡

建築面積 2,949.59㎡

延床面積 11,043.73㎡

構造=鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄筋コンクリート造

規模=地下1階 地上5階

仕上げ概要

外部仕上げ 屋根：硫化銅板瓦棒葺き 外壁：外国産花崗石 J.P 仕上げ乾式工法 建具：アルミサッシュ ウレタン樹脂 焼付塗装 ブロンズサッシュ

内部仕上げ 1階営業室 床：カーペット 壁：大理石本磨き 背面化粧吸音壁（キャストアルミルーバー）内部グラスウール⑦50 天井：ルーバー化粧天井 4階大会議室 床：カーペット 壁：木質化粧準不燃材及び同吸音壁 モルタル不燃クロス 天井：石膏ボード寒冷紗

リブ付き岩綿吸音板 折上げ部 FG ボード寒冷紗 P 加工 5階会議室 床：カーペット 壁：モルタル不燃クロス 軽鉄間仕切り部分：石膏ボード 不燃クロス 外壁面：軽鉄下地石膏ボード 不燃クロス 天井：リブ付き岩綿吸音板及び FG ボード寒冷紗 R 加工

設備概要

空調 熱源：吸収式ガス冷温水器 2重効用 30%省エネルギー型 空気熱源スクルー冷凍機 方式：デュアルダクト+可変風量方式 単一ダクト方式 マルチゾーン方式

衛生 給水：高架水槽方式 給湯：電気湯沸器 ガス貯湯式湯沸器

消火 屋内消火栓設備 連結送水管設備 連結散水設備 排煙 機械排煙



1階営業室 Office on the first floor.



大会議室 Large conference room.



食堂 Dining room.

選評 香山壽夫 扇谷 壽 吉成 武

この建物は、京都市南部に向かう竹田街道に沿って、親しみやすく落ち着いた表情を見せている。銀行本店の建物の多くが、風格と威厳を重視するあまり、しばしば威圧的になりがちであるのに比し、この建物が地域に融合していこうとする姿勢を持っている所が、第一に評価される点である。このことは、具体的な方法としては、建物前面の道路側に緑の豊かな外部空間を配したこと、また建物の高さを抑えかつセットバックさせたことによって、立面のスケールを親しみやすくしたこと等によって見事に実現されている。こうした都市空間的な配慮は、銀行や信用金庫といった建物が、地域の核となるためのひとつの優れた態度として評価し得る。ただしこの点について欲をいうならば、敷地が道路の交差点にあるという都市的条件が、今一步、建物の配置および立面に反映していない点が惜しまれる。

建物の平面も、銀行営業室と本店業務諸室とを明快に区分

し組み合わせたひとつの模範的な解答といえる。規模や機能の異なる大小様々な空間がそれぞれ巧みに作り出され、また全体として鮮やかに結合されている。そしてまた、執務室、会議室、廊下等の内部空間の各部分に必ず自然光を導き入れるという徹底した方針が貫かれている。ここで働いている従業員が皆この建物を自分達の建物として親しんでいるということは、こうした設計並びに企画上の配慮の帰結といえよう。

建物の施工も、企画、設計の意図に沿って、細心、確実に行われ、落ち着いて風格のある建物を良く実現している。特に内・外装に石貼工事が多用されているが、乾式工法をはじめ、施工上の工夫が凝らされ、それが単に技術上の進歩だけでなく、意匠的にも効果を上げている点が評価される。

建物の企画から設計そして施工という流れの中で、一体の協力が見事に実を結んだ建物として、この建物はBCS賞に値するものである。

REVIEW

Hisao Koyama, Hisashi Ogitali and Takeshi Yoshinari

In contrast to many bank buildings, which tend to be overpowering in their overemphasis on dignity and solemnity, this restrained, comfortable-looking building blends with its region in an especially impressive way.

The means whereby the effect is achieved include positioning of a green exterior zone in front of the building on the side adjacent to a street and creating a familiar scale by limiting height and employing setbacks. The praiseworthy attitude behind these architectural steps is the desire to make regional nuclei of banks and trust banks. But, given the urban street-corner location, it seems that this desire could have been more forcefully reflected in placements and elevations.

The floor planning is a model of separating the bank business office

from the headquarters offices. Space of various sizes and functions are skillfully created and then combined in a fresh whole. Ensuring natural lighting in all office, conference, and corridor spaces reflects design and planning consideration of the belief that all staff members should feel at home in the building.

Accuracy and detail in construction, planning, and design have produced a dignified, restrained building. In the abundant interior and exterior use of stone cladding, the dry-system, and all other aspects of construction, ingenuity not only contributes to technological progress, but also improves the design. Everything from planning, through design, to construction demonstrates the closest cooperation among client, architect, and contractor.

